

(令和3年5月6日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(財務体質・その4 (完) -総括)

今回の財務体質シリーズでは、ROEの展開を中心に財務体質を見る際のポイントについて4回にわたりみてきました。その1では、株主としては自分たちの持分に対して每期どれだけの利益を上げているかが重要。そこで自己資本当期純利益率が核になることになること。その1の(2)では、ROEの応用編としてROEで用いる利益は当期純利益ではなく営業利益や経常利益を使って可。その2ではROEの展開式(1)について、その3ではROEの展開式(2)について説明しました。そして、ROEの展開式は収益力や資本使用効率、財務リバレッジ等を体系立てて把握できることを説明してきました。

そして、今回は総括。ROEが高い方が良い、低い方は良くないと一概に言えない中、ROEの展開式は財務体質を体系立てた展開(分析)のもと「経済環境(業界動向)や金利水準の変化などに対してどのような影響を受けやすいか、言い換えれば収益の方向性や安定性をみるためのデータ」となります。

最後に、ROEは下記のようにPER(株価収益率)の逆数とPBR(株価純資産倍率)に分解することができるのですが……。

$$\begin{aligned} \text{ROE} &= \frac{1 \text{ 株当り当期純利益}}{1 \text{ 株当り純資産}} \times \frac{\text{株価}}{\text{株価}} \\ &= \frac{1 \text{ 株当り当期純利益}}{\text{株価}} \times \frac{\text{株価}}{1 \text{ 株当り純資産}} \\ &= \text{益回り} \left(\frac{1}{\text{PER}} \right) \times \text{PBR} \end{aligned}$$

PERには、PERの論理(将来の成長力を表すもの)があり、単純に一株当たり利益と株価として捉えた方が一般的。またPBRは、一株当たり純資産は企業の解散価値と捉えられますが、現実には各資産を時価評価すればどうかなど…。株価はいくつかのファクター(ROEもその一つ)で説明する方が判り易いかと思います。

いくつかの企業の財務データを展開式に当てはめ、時系列に並べてみてください。

(了)